

空飛ぶクルマ 離島つなげ

大豊産業が購入予約

次世代の移動手段として開発が続く「空飛ぶクルマ」航行に向けた動きが瀬戸内地方で進んでいる。3月に香川県で早期実現に向けた官民協議会が発足。4月には産業用ロボットの販売などを手がける大豊産業(高松市)が、スカイドライブ(愛知県豊田市)の商用機を購入予約した。2025年以降に納入予定で、大豊産業は香川県・愛媛県にある離島観光向けの航路実現をめざし準備を進める。

瀬戸芸に向け航路実現へ

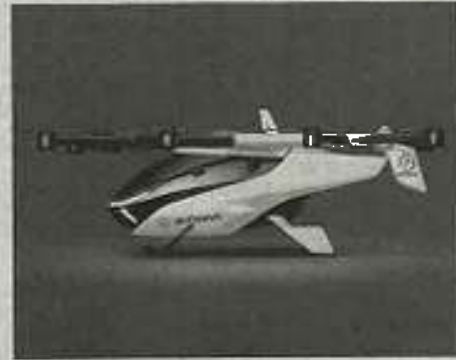
大豊産業は4月にスカイドライブと空飛ぶクルマの機体「SD-05」のプレオーダー契約を結び、同社に対し出資(金額は非公表)。機体は25年国際博覧会(大阪・関西万博)以降に納入される。大豊産業は観光向けに、高松港と香川県の離島を結ぶ航路や、愛媛県で離島を結ぶ航路を想定する。

空飛ぶクルマを実際に運用するためには、操縦・メンテナンス人員の確保や離着陸ポート・駐車場の整備などが必要になる。同社はこれらの解決に向け、地元企業との協

議に入った。3月に発足した香川県の官民協議会のメンバーにも名を連ねた。県内の離島を結ぶ航路について提案し、運航に向けた法的な問題についてクリアしたい考えだ。

官民協議会は県や市町のほか、全日本空輸や日本航空などの航空会社、高松空港や四国電力、百十四銀行、香川銀行なども名を連ねる。23年度は計4回の会議を開催する予定で、情報共有や候補ルートの絞り込みを進める。

4月に高松市で機体のプレオーダー契約を結んだスカイドライブ提供



大豊産業がスカイドライブから購入予約した「SD-05」は全長、全幅が各9・4m、プロペラを含む高さが2・7m。搭乗人数は現状で最大2人を想定する。巡航速度は最大で時速100km/h、航続距離は5〜10km。

大豊産業はスカイドライブの「SD-05」をプレオーダーした(イメージ)スカイドライブ提供

けとなる。真上から着陸することが可能で、広大な離着陸ポートを必要としない。

瀬戸内海に浮かぶ香川県の各島は3年に1度の瀬戸内国際芸術祭(瀬戸芸)の舞台となる。次回開催予定は25年と大阪・関西万博と重なることから、観光振興が期待されている。同年の納入が実現すれば、大豊産業は瀬戸芸に合わせた高松港から島々、島と島を結ぶ航路を実現させたい考えだ。大豊産業の神野孝博

専務は「万博の流れを四国にも持ってきてほしい」と意気込む。

大豊産業は22年に電気自動車のシェアリング事業に参入。モビリティを通じたまちづくりへの貢献をめざしており、空飛ぶクルマの運用はその延長線とも位置づける。海外展開も視野に入れ、同社は4月、タイ向けに産業用ロボットなどの輸出入を手がける現地法人を設立。海外の現地法人は同社にとって初めてで、空飛ぶクルマ

のタイへの進出でもスカイドライブと協力したい考えだ。

タイでは鳥インフルエンザ感染など鶏舎の異常を人工知能(AI)で検知する装置を中心に取扱い、同国で生産するロボットの国内販売も担う。国内における空飛ぶクルマのノウハウ蓄積と現地のネットワーク拡大を進め、将来的にはタイで空飛ぶクルマの販売を担うことを視野に入れる。

大豊産業は22年に電気自動車のシェアリング事業に参入。モビリティを通じたまちづくりへの貢献をめざしており、空飛ぶクルマの運用はその延長線とも位置づける。海外展開も視野に入れ、同社は4月、タイ向けに産業用ロボットなどの輸出入を手がける現地法人を設立。海外の現地法人は同社にとって初めてで、空飛ぶクルマ

のタイへの進出でもスカイドライブと協力したい考えだ。

タイでは鳥インフルエンザ感染など鶏舎の異常を人工知能(AI)で検知する装置を中心に取扱い、同国で生産するロボットの国内販売も担う。国内における空飛ぶクルマのノウハウ蓄積と現地のネットワーク拡大を進め、将来的にはタイで空飛ぶクルマの販売を担うことを視野に入れる。

(鈴木泰介)